

## 野菜



### 甘長とうがらし今後の管理



#### 野菜

平田 優輝  
上島営農指導センター  
080-1729-1639

- 追肥**…収穫始めから行いましょう。  
※アサヒエース 10 a 当たり 14～20kg (10～14日の目安) 又は、液肥を500倍かん水します。
- かん水**…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行いましょう。  
※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることもあり、曲がり果の原因になる。
- 整枝**…主枝の4本は必ず残しましょう。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯しましょう。  
※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。
- 摘果**…曲がり果等の不良果は早目に除去しましょう。  
※樹勢低下になりやすい。
- ネット張り**…2段目は1段目より40～50cmの高さにしましょう。  
※1段目は地面から70cm ぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。
- 斑点病対策**…Zボルドーを500倍で散布しましょう。(混用はしない・果実の汚れに注意)
- |                    |            |       |       |    |
|--------------------|------------|-------|-------|----|
| <b>害虫対策</b> …スリップス | スタークル顆粒水溶剤 | 2000倍 | 前日まで  | 2回 |
| オオタバコガ             | アフーム乳剤     | 2000倍 | 7日前まで | 2回 |
| アブラムシ類             | モスピラン水溶剤   | 8000倍 | 前日まで  | 2回 |
- 尻腐れ対策**…カルシウム剤の散布を行いましょう。(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500～1000倍で散布しましょう。
- 白絹病対策**…リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回



## 畜産



### 肉用牛の暑熱対策について



#### 畜産

井上 正一  
黒牛産肉検定センター  
080-1729-1626

和牛繁殖経営では受胎率の下がる暑熱期の繁殖管理をどのよう乗り切るかが重要です。そのためには、夏場であってもしっかりと種付けできる飼養管理を心掛けましょう。

#### 1. 快適環境とは

快適温度域を超え気温が上昇すると、体温の上昇を防ぐため呼吸・発汗が増えるため要注意です。

「快適：気温 15～25℃」体温維持のエネルギーが最小限  
快適に過ごせる環境

「暑い：気温 26～30℃」体温調整できる体温限界

「苦しい：気温 30℃以上」食欲が減退し、繁殖障害が起こる

#### 2. 畜舎内の暑熱対策

気温・湿度を下げ、風を増やして体温調整しやすい環境作りをしましょう。

- ①屋根 寒冷紗の設置・散水・反射資材(石灰等の塗布)
- ②牛舎内 遮光ネット・送風機の設置・細霧散布
- ③管理 十分な飲水の確保・腐敗防止のため残餌掃除

#### 3. 暑熱による影響

食欲減退(体温上昇の影響)

- ・ルーメンの機能低下で食欲減退  
ルーメン内で粗飼料が分解されて生じる発酵熱で

体温上昇してしまうので自ら制御してしまう

- ・選び食いでルーメンアシドーシスの危険性大  
ルーメンに滞留しやすい粗飼料より分解が早い配合飼料を選び食いつき PH が急に酸性に傾く。
- ・栄養障害による繁殖障害  
体温上昇による栄養障害はホルモン分泌を乱し、繁殖微弱や卵胞腫脹排卵停滞をひきおこす。

#### 4. 飼料の食い込み改善

- ・給餌方法の変更(夜間給餌・1回分を数回に分けて給餌)
- ・粗飼料細断(2～3cm程度)配合飼料と混合して、ルーメン内滞留時間の短縮
- ・飼料の栄養価を高める(暑熱時、養分要求量が1割程度増加する)
- ・炭酸水素ナトリウム(重曹)の給与(ルーメンのPHを安定させる)

繁殖牛の受胎率は9～11月に低下します。これは気温による暑熱の影響が2ヶ月前の繁殖性まで影響するためです。(卵胞が原始卵胞が成熟するためには2～3ヶ月かかり、暑熱による影響が大きい)このため、夏場に十分な暑熱対策を行うことが繁殖成績の向上に繋がりますので、上記の事に注意され飼育管理に努めて下さい。



水稻



品質維持は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。

そのため、間断かん水による水管理を励行しましょう。収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米や粒張り不足・胴割れ米の原因となり、品質や食味を落とします。

田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲刈りに支障のない限り落水期は延長してください。(刈り取り5～7日前まで水田を乾かさないようにしてください。)

適期刈り取りの励行について

1穂粒の85%(粉黄化率)程度黄色く熟れる頃が収穫最適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので、注意が必要です。目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から30日たった頃です。



水稻

吉田 義文  
指導販売課  
0969-22-1105

病害虫防除

いもち病、カメムシの予防防除対策として出穂期と、穂揃い期の2回の防除を行ってください。散布の際は使用基準を遵守し、飛散等のないよう心がけてください。また、散布された際には、栽培管理台帳への記入をお願いします。

農薬の使用上の注意事項

農薬を使用する前には、ラベルの適用内容及び注意事項を必ず確認し、適切に使用してください。作業中は農薬マスク、手袋、防除衣など適切な保護具を着用して作業しましょう。



果樹



6月の柑橘園管理

6月は黒点病がつきやすい時期となりますので固着性展着剤のアピオンEを加用し、効果の高い防除を行きましょう。

1. 病害虫防除

項目	時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州中晩柑	上旬～下旬	カイガラムシ類	スプラサイド乳剤 40	1,500倍	混用
		ゴマダラカミキリ			
		黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	
	中旬	展着剤	アピオンE	1,000倍	加用
		ミカンハダニ	ハーベストオイル	150倍	混用散布
		ミカンサビダニ	サンマイル水和剤	3,000倍	
下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	中晩柑のみ	

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢低下樹には使用を控えてください。

※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤1,000倍を散布しましょう。

2. 葉面散布の実施

新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。緑化が遅れている園では、チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
緑化促進	葉面マグ	200倍	混用散布
樹勢維持	尿素 又は アミノジューシー N14 又は 神協スピリッツ	500倍	
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	テコボン等

3. 施肥の実施

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり施用数
通常タイプ	6月上旬	ボンカン・清見 甘夏・河内晩柑	熊本果樹肥料 10-7-4 又は ひのくに果樹 9-3-3	5袋
		パール柑 テコボン	熊本テコボン 8-3-3	4袋



果樹

白戸 一斗  
下島営農指導センター  
080-1729-1633

4. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけほの・早生	7月中旬～8月中旬

5. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。特に小玉の多い「肥のあかり」を中心に内成りや天成り果を早期に除去して下さい。

○薬剤摘果

生理落果期に摘果剤を使用する事で、早期にかつ省力的に摘果を行う事ができます。

特に早期摘果が難しい極早生温州やボンカンで使用し、一階級UPを目指しましょう。

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	回数
温州みかん	摘果	500倍～1,000倍	1次生理落果期 (満開10～20日後)	1回
		500倍～1,000倍	2次生理落果期 (満開20～40日後)	
かんきつ	摘果	1,000倍～1,500倍	生理落果期 (満開10～50日後)	1回

※使用方法

①摘果効果は気温に左右されるので、25度程度の気温が2～3日続く日を選んで散布する。

②粗摘果目的で使用する場合は樹冠内部への散布を基本とし、散布液が飛散し過ぎないように散布圧力を調整して使用する。

※注意事項

①マシン油乳剤との近接散布に注意する。前後7日程度空けてから使用する。

②高温下(30℃以上)での散布又は散布後に高温が続くと過摘果になる場合があるので気象条件を見極めてから散布する。

